

## 部長挨拶

早稲田大学バドミントン部部长 関 一誠



第62回早慶定期戦開催おめでとうございます。  
本年は、ノバドミントン界にとって特筆すべき二つの事柄がありました。  
その一つは、何と言ってもトマス・カップ優勝とユーバー・カップ準優勝です。日本が、男子、女子ともに世界チャンピオンに君臨したわけですね。  
特に、トマス・カップ優勝は両校関係者が永年抱いてきた悲願の優勝であり、誰もが喜びを限りなく感じていること存じます。このことは、さらなるノバドミントン競技の競技力向上が期待され、東京オリンピックでの成果がさらに熱望されることです。  
いまひとつは、慶徳大学女子バドミントン部が、関東大学二部リーグに昇格したことです。

早稲田大学にとって、勝負ということでは脅威となりますが、ライバル校として頼もしく、大変うれしく思います。早慶戦に先立って、先日、東日本学生大会で、女子早慶戦が行われました。まさに互角の戦い、早稲田が辛勝したものの、むしろ慶徳が優位な展開となりました。今年度の早慶戦は、男子戦、女子戦とも気を緩める暇がないくらい、好ゲームが展開されることでしょう。

今年の日本列島は、昨年同様、猛暑・酷暑と言言葉では語り尽くせないほどに暑い毎日が続きました。暑さだけでなく、日本中が災害に苛まれ、豪雨、土砂災害で多くの被災者が出たことは大変悲しいことでした。早慶関係者の中にも被災にあった方がおられるかもしれません。ご健勝を祈るばかりです。

それら多くの不安材料を克服し、スポーツのもつ普遍さや個々の向上心に支えられ、早慶両校の選手達が、それぞれの目標に向かって日ごろの鍛錬に努力し、今日を迎えました。その努力の成果を競い、ぶつけ合い、切磋琢磨したこと晴れ舞台が早慶戦です。

選手だけでなく、多くの観衆を巻き込んで魅了する、素晴らしいバドミントンを見せてくれるものと期待しています。  
両校の更なる活躍を祈念します。

## 会長挨拶

稲門バドミントンクラブ会長 登坂 洋



第62回早慶バドミントン定期戦おめでとうございます。  
今年度の日本バドミントン界は、男子はトマス・カップで初優勝、女子はユーバー・カップで準優勝という素晴らしい成績を残しました。その男子選手の中に、4年前の主将の上田拓馬と3年前の主将の嘉村健士がおり、両選手共に大活躍いたしました。

私が大学1年だった昭和37年の早稲田の主将は、堺栄一氏で、慶徳の主将は宮永武司氏でした。この両主将がトマス・カップや全英選手権や多くの国際試合に日本代表としてご活躍され、またこの度の東京オリンピック招致にもご尽力されました。

今秋のリーグ戦では、この春に2部に昇格した慶徳が活躍し、早稲田の応援をする傍ら慶徳女子の成り行きに一喜一憂しておりました。

今日の男子戦はリーグ戦と違い5複10単の総力戦です。両校死力を尽くした試合を行いそしてオリンピック、トマス・カップへの選手が巣立つことを期待しております。

## 部長挨拶

慶應義塾体育会バドミントン部部长 田村俊作



第62回慶早バドミントン定期戦を祝して一言ご挨拶申し上げます。

わが国はそもそもバドミントンの競技人口が多い上に、近年はますます増加する傾向にあると言われています。選手層も厚みを増し、今年ついにトマス杯に優勝し世界一になったのは慶賀の至りです。優勝が決まった瞬間に歓喜の声を上げる早稲田出身上田拓馬君の姿は感動的でした。

わが慶應バドミントン部もこれまでにないほどに力を入れて、戦力強化をめざして取り組んできました。日吉記念館での夏の酷暑に耐えての練習はむろんのこと、部員は各人の力に応じた練習に励んできました。さらに、今年はとりわけ他チームとの交流を盛んに行なうてきています。こうした成果はすでに現われてきていますが、秋になって一層確かなものとなり、まだまだ早稲田の胸を借りる立場に変わりはないものの、定期戦でもその確かな一端を見せてくれるものと期待しています。

主務を中心として定期戦の運営に当たる皆さんが、円滑な運営のために尽力してくれるのは例年のことですが、今年は特に趣向を凝らしていると聞いています。内容はわかりませんが、楽しみにしています。OBも参加する定期戦は、単なる試合を超えて、早慶というライバル校同士が親睦を深めあう大切な場です。どうか精一杯戦い、語り合い、今日という一日を楽しみましょう。

## 会長挨拶

三田バドミントンクラブ会長 鈴木英夫



5月下旬に「日本女子・ユーバー杯準優勝」というニュースが流れて喜んでいたら、翌日には「日本男子・トマス杯初優勝」という驚くべきニュースが流れ、狂喜しました。

そして、2-2で迎えた決勝戦の最終シズルスに勝ったのが早稲田OBの上田拓馬君と知り、勝因分析をしている早稲田監督・今井専務理事の喜びの姿をテレビで見ても、更に嬉しく思いました。

さて、第62回慶早バドミントン定期戦が開催されます。

春のリーグ戦で男女とも1部の早稲田に、男子4部・女子2部の慶應が挑戦するので、すから、慶應にとっては厳しい試合になることが予想されます。

しかし、「バドミントンの番狂わせはつきものなので、慶應の学生諸君は「自分が番狂わせを起こしてやる」といった気概を持って、積極果敢に早稲田の選手に立ち向かって欲しいと思います。

私にとっての慶早バドミントン定期戦の楽しみは、学生たちの元気な姿を見ることに加えて、普段会えない慶早のOBに会えることです。今回の慶早戦でも両校の多数OBにお会いして、懇親会で楽しいお酒を一緒に飲めることを楽しみにしております。

今年も早慶両校の現役、OBが一同に会して競い合う早慶戦がやってきました。この伝統ある定期戦も今年で第62回を迎えることになりました。これもひとえに諸先輩方の努力と熱意の賜物と感謝申し上げます。

今年も監督として戦えることに感謝するとともに大変光栄であり嬉しく思います。直前の東日本学生選手権大会では団体にて男女とも第3位と目標の優勝はできませんでしたが健闘し、今年もこの定期戦に向けて学生がハイスタートを切ったことを嬉しく思います。また、関東学生秋季リーグ戦、インカレと大会は続き、体調管理が重要となりますが男女とも、より良い結果を残せるよう、充分に準備して精進していきたく思います。期待してください。

さて、今年の定期戦ですが、全員で一丸となり慶應に臨み、是非勝利をものにしたいと思えます。しかし、いつも独特の雰囲気の中で行われる早慶戦は過去いくつもの名勝負が実力を超越したところで勝敗がついて来ました。選手諸君には今年も気合い負けせず、日頃の練習の成果を充分に発揮し早稲田らしく悔いのないプレイを見せてほしいと思います。特に4年生、和田、堀ノ内、上田、渡辺には学生最後の定期戦として、後輩達の見本となるよう力をつくして必ず勝利してもらいたい。そして、良き思い出をつくってください。

最後に、今年も慶應の現役、OB諸氏と共により良い試合を展開し、より両校の友好が深まることを望みます。

## WASEDA VS KEIO

特殊鋼他各種金属素材の切断加工販売いたします。

# 五味渕鋼鉄株式会社

代表取締役 五味渕 努 (昭和63年慶應大学法学部卒)

本社 横浜市都筑区川向町922-26  
TEL045(474)4560 FAX045(474)0003  
E-mail: go3buchi@f3.dion.ne.jp  
郡山支店 福島県郡山市喜久田町菖蒲池22-165  
TEL0249(59)1511 FAX0249(59)1516

『打倒早稲田』。これは、どんなに実力差があっても、我々の変わらぬ目標です。この一年間を振り返ってみると、我が部は男子（昨春5部降格→本年4部2位）、女子（昨春3部昇格→本年2部3位）ともに順位を戻し、慶應と早稲田の相対的なギャップは僅かながら縮まりましたが、絶対的な両者の実力差は未だ大きい現状です。

『打倒早稲田』を実現するためには、正に巨大なジグソー・パズルを構成する膨大な量のピースを一つ一つ試行錯誤しながら当てはめて完成していく時と同様の忍耐力や集中力、そして、何よりも「強くなりたい」というピュアな想いを抱き続けた中での練習が欠かせません。

また、巨大なジグソー・パズルを完成するためには、一つ一つの失敗を恐れることなく、新たな挑戦を繰り返し、如何なる難局にも打ち勝っていくことが必須となる中、幾度とない失敗や新たな挑戦、難局の中には個々の実力を高め、それ相応か、それ以上の成長機会を獲る大きなチャンスが潜んでいると思います。

慶應バドミントン部は、「プレーヤーである以上、高位を目指し、目標に向けて努力を惜しまず、如何なる環境においても最善を尽くす」との想いを引き継ぎ、目標達成に至るまでの「プロセス」とプレーヤーとしての「心構え」の大切さを一時も忘れることなく、「強くなりたい」というピュアな想いを日々の練習にぶつけ、本日の慶早戦を迎えました。

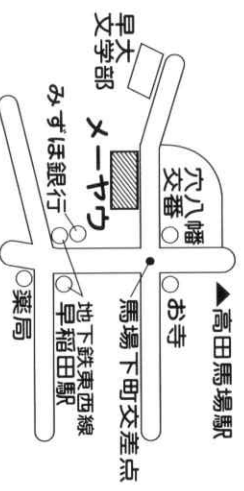
慶應の現役諸君、本日は結果に拘り、昨年よりも、1ポイントでも、1ゲームでも、より多くの勝利を勝ち取り、これまでの練習の成果を思う存分発揮して欲しい。

最後になりましたが、早稲田の現役諸君、是非とも諸君の実力を慶應に見せつけてください。慶應は今日の慶早戦で対戦した諸君との試合を糧にして一歩一歩前進して行きます。

## KEIO VS WASEDA



メーヤウとは、当店の味の故郷…  
タイの北部の小さな村の名前です。  
当店の料理は、一度ではなかなか  
御理解頂けないかもしれませんが、  
慣れて頂ければ必ず美味しさかわ  
かっていただけるかと確信しておりま  
すのでよろしくお願ひ申し上げます。



**早稲田店**  
営業時間  
月～金 11:00AM～22:00PM  
土 11:00AM～20:00PM  
日祝休

〒162-0045  
東京都新宿区馬場下町18-9秋山ビル2F TEL・FAX 03-5273-3770

早稲田大学 社会科学部 平成22年卒  
羽石直弥

第62回早慶バドミントン定期戦の開催、誠におめでとうございます。諸先輩方から繋がれた樽を受け継ぎ、今年も伝統あるこの定期戦が無事に開催されることを嬉しく思います。私が特に印象に残っているのはバドミントンを始めて13年目になった、4年生の最後の早慶戦でした。私はこの早慶戦を最後に、現役を引退することを決めていたので、「本当に・・・本当に最後の試合だぞ」と、気持ちを引き締めて挑みました。

当時、主将を務めていた松浦君と最後の試合のコートに立つ時に、胸に込み上げるものがあったことを今でも覚えています。松浦君とは良き友であり、ライバルでした。小学～高校まで幾度となく全国大会で戦ってきた彼と共に早稲田大学に入学し、同じ学校になってもなお、再度、インカレで対戦するという戦友でした。そんな彼と最後の晴れ舞台でパートナーとなり、全力を出して戦えた経験は一生の思い出です。そして、この晴れ舞台で最優秀選手賞をいただけたことは私にとって一生の誇りです。

現役学生諸君！早慶戦で熱くなれ！

私のように、この早慶戦が人生の一区切りになる学生もいることでしょう。悔いの残らないように最後の最後まで熱く！熱く！そして、熱く！戦いを繰り広げて下さい！

最後になりましたが、今大会を開催するにあたり、運営にご尽力くださいました方々に感謝し、早慶両校の更なる飛躍につながる大会になるよう御健闘をお祈り申し上げます。両校の皆さん頑張ってください。

早慶戦  
WASEDA KEIO  
寄せて

早稲田大学 基幹理工学部 平成26年卒  
土井悠也

第62回早慶バドミントン定期戦の開催、おめでとうございます。

今年度は慶應義塾大学女子の29年ぶりの2部昇格や早稲田の先輩である上田拓馬さん、嘉村健士さんのトラスカップ優勝など早慶両校にとって明るいニュースの多い年となり、遠く離れた広島の中でも両校の活躍を見るのは楽しみの一つでもありました。

私の早稲田大学バドミントン部員としての4年間はプレーヤーとしてだけでなく、それを支える側としての思い出が多くあり、特にこの早慶戦は私自身が運営側として携らせていただいた試合として最も思い出があります。準備を大会の半年ほど前から始め、様々な業者の方に協力をお願いするなど、多くの困難があり、この大会を開催するのは容易なことではありませんでした。しかし私にはその苦労以上に両校の皆さんが試合中、試合後の懇親会で学校・年齢関係なく笑い合い楽しんでくださっている姿を見られたことがとても印象に残っています。早慶戦でのこの思い出は現在働く上での関わる顧客の笑顔を見たいという思いの原点だと思っています。

試合としての早慶戦は他のどの大会にもない空気があり、常にその空気が纏っているプレッシャーとの戦いでもありました。さらに出場した試合は全て同学年との試合で、特に意識してしまう同学年のライバルには負けたくないという思いもありましたが、慶應義塾の勢い、気迫にはどの試合でも押されていたように思います。辛くも勝利をあげることができましたが、早慶戦以上に精神的に苦労する大会は今後のバドミントン人生にはないと断言できます。

早稲田大学バドミントン部OBとして早稲田大学の勝利を願うのはもちろんですが、この第62回早慶戦が大いに盛り上がり、たくさんの笑顔を生む大会になることを願っています。

最後になりますが、本大会を開催するにあたり、運営に尽力して下さった両校の部長、監督、主務・副務の方々、関係者の方々に感謝申し上げます。両校の発展を祈念し挨拶とさせていただきます。



慶應義塾大学 経済学部 昭和57年卒  
松尾有代

62回目の慶早戦開催 おめでとうございます。関係者の方々のご尽力の賜物と感謝致します。

慶早戦は、数ある試合の中でも特に華やかで記憶に残るもので、卒業して30年以上経った今でも様々なシーンがよみがえってきます。私事ですが、忘れられない慶早戦の思い出があります。私は1年生の時にシングルの試合に出させていただき、早稲田の同じ1年生のTさんと対戦して、負けてしまいました。その後、彼女とは意気投合しブライベートでも仲良くなりましたが、4年生で卒業するまでに彼女に勝ってリベンジすることが私の心に秘めた目標でした。しかし結局4年生の慶早戦前に彼女はアキレス腱を断裂してしまい対戦する夢は叶いませんでした。慶早戦にはドラマがあります。結果ももちろん大切ですが、勝ちたいという思いをどれだけ強く持ち続けられるかが大事だと思います。

今こそ早稲田の女子は、1部という輝かしい成績ですが私の現役当時は、慶應と同様人数不足に悩んでいました。慶早戦に勝利した體育會のクラブのみ塾長主催の食事会に招待していただけるといふ笑に慶應らしい企画に毎年行かせていただいたことがとても良い思い出です。

女子は常に部員不足に悩みながら今日まで途切れることなく続いてきたのみならず、今年は29年ぶりに2部に昇格という勢いがあります。男女とも記憶に残るような慶早戦での素晴らしい熱戦を期待しております。そしてこれからもこの慶早戦という伝統の戦いが未永く続いていくことを願ってやみません。

KEIO 慶早戦 寄らせて WASEDA

慶應義塾大学 商学部 昭和63年卒  
木村充宏

本日の慶早バドミントン定期戦開催を心よりお祝い申し上げます。

当時、大学3年になる直前の春合宿が終了した頃、主務の腰越先輩（S62年卒）から、そろそろ慶早戦の準備に着手するぞ、と言われ、「えっ、半年以上も前から？」と驚いたことを記憶しています。

ところが、準備には想定外のことも多々あり、相対する早稲田の副務・大原氏（S63年卒）と開催直前まで下準備に追われました。日時・大会場所・懇親会場の決定と確保、予算策定、案内状作成・配布と出席確認、記念品の選定・用意、審判員・応援部の手配、付属校・OB戦の手配・組合せ、パンフレット関連で広告依頼から寄稿文・写真等の編集等々を、両校の主務・副務4人を中心に、時には先輩・OBの協力や準備進捗の「度合い」を慶早で競いながら、何とか大会当日を迎え、無事試合・懇親会を運営することができました。開催当日のイメージを何度も何度も確認しました。選手が正々堂々と勝負できる晴れの舞台を提供するのはもちろんのこと、選手以外の来場者や関係者がどんな気持ちで試合を支援・観戦、また懇親できるか、等々まで想定・議論した当時の自分を忘れられません。遅れて日吉記念館に戻り、慶早戦に向け必死で練習する同期・後輩を見て安心する一方、疎外感を持つこともしばしばありました。ただ、準備・運営を通して、早稲田や付属校、業者等関係者との連携や、慶早両校の諸先輩・OBから直接指導・協力を頂いたことは、学生身分として本当に貴重な体験でした。

OBとなって26年経ちますが、様々な慶早戦を国内・海外で経験できました。バドミントンの慶早戦は、様々な思いをして自分なりに足跡を残したことで今でも心の拠り所です。そのおかげで、形態・場所を問わず、慶早戦は今でも不思議に何かが湧き上がる感慨深いものになっています。今日もその想いです。

最後になりましたが、伝統を引継ぎ慶早戦の準備・運営にご尽力された両校関係者、諸先輩の皆さまに感謝申し上げますとともに、両校の益々のご発展を祈念申し上げます。

第62回となる早慶バドミントン定期戦を迎え、心よりお慶び申し上げます。また、本定期戦の開催に向けて本日までご尽力されてきた両校の皆様にご感謝と敬意を表します。

本年は日本がトマス杯優勝、ユニーバー杯準優勝という快挙を成し遂げ、バドミントン界の歴史に刻まれる年となりました。数年前までこの早慶戦の舞台でも戦っていた早稲田出身の選手が活躍し、日本の勝利に大きく貢献したことは大変喜ばしいことであると同時に、慶應も再びそういった選手を輩出できるようになることを願っております。

私自身これまで様々な試合を経験してきましたが、早慶戦での戦いで感じた気持ち、背中に受けた声援は、この1年に1度の日を迎えるたび、昨日のことのように鮮やかに記憶に蘇ってきます。結果を考えず必死でシャトルを拾った結果、単複ともに勝利をものにすることが出来たのは望外の喜びでした。沢山の声援とプレイヤーの中でプレイするわけですが、現役の皆様には思い切ったプレーをすることだけを考えると試合に臨んで頂きたいと思います。

この伝統ある大会の出場権を争う熾烈な部内選考試合もあると思いますが、出場する選手は周りの方々や他の選手の気持ちを背負っていることを忘れないで下さい。特に、慶應の選手にはプレーする前から気持ちの面で負けることが決してないよう、自信を持ってコートに立つことを願っております。

昨今では早稲田に大差で敗北している慶應ですが、大学リーグ戦でいつか1部に返り咲くことを夢見て、OBOG現役含めて様々な活動をしており、その成果もあって慶應はここ数年で実力を上げ、上昇気流にあります。そういった中で、慶應にとってホームである日吉の地でのような戦いが繰り広げられるのか、その奮闘ぶりを見ながら応援することを大変楽しみにしています。

4年生にとっては本定期戦が引退試合となるため、シャトルコートに着く瞬間まで諦めず、また最後の1点を取るまで油断せずに自身の力を十分に発揮し、これまでのバドミントン人生の集大成となるよう期待しております。

バドミントンはシャトルを通じて会話をするスポーツであり、その会話を通じてお互いがかかり合えるスポーツです。そんなバドミントンの素晴らしさに感謝しつつ、両校の交流が一層深まることを祈念しております。



## 祝 早慶バドミントン定期戦

いつもご利用ありがとうございます。

OB・OGの皆様にも同窓会・クラス会・各種パーティーのご予約承っております。

### 慶應義塾日吉フテカルテイルラウンジ

営業時間 AM 11:00～PM 8:00

定休日 日・祝日 (パーティー予約については応相談)



## 丸尾亮太郎

早稲田大学バドミントン部主将を務めさせていただきました丸尾亮太郎です。平成26年度卒業生を代表して、ご挨拶させていただきます。

第62回早慶バドミントン定期戦の開催、心よりお祝い申し上げます。今年も栄えある定期戦が受け継がれていること、喜ばしく思います。OBという立場になりましたが、今年も早稲田大学バドミントン部の一員として、早慶戦に参加できることを楽しみにしております。学生時代様々な大会に出場してきましたが、早慶戦には毎年特別な思いを持って臨んでいます。大学の名前を背負い意地とプライドをおつけ合う熱い戦いに、自分自身の気持ちも自然と高揚感で一杯になっていました。そんな特別な大会だからこそ、今年も現役生の皆さんには私たちがOB・OGを熱くさせてくれる、普段以上に気持ちのこもったプレーを期待します。

昨年の早慶戦を思い返すと、頭に浮かんでくるのはやはりOB・OGの皆様、同期、後輩に囲まれて戦った主将戦です。入学した時から早慶戦の主将戦を戦うことは私にとっで憧れました。そんな憧れでもある主将戦の舞台に立ち、多くの人の応援を受けながら戦うことができたことは、私自身のバドミントン人生においてとても大きな財産となっています。今年も現役生にとっで心に残る、忘れられない早慶バドミントン定期戦にしてみたいと思います。

また、懇親会も早慶戦における醍醐味の一つであり、早慶両校の親睦を深めるという意味でも積極的に交流して頂きたいと思えます。私自身は毎年夜の早慶戦は惨敗でしたが、慶應の皆様ととことん飲み明かせる年に一度の機会をとっても楽しみにしております。今年もバドミントンだけでなく、夜の早慶戦も大いに楽しんで頂きたいと思えます。

最後にありますが、大会の企画運営をしてくださった方々、支えてくださるOB・OGの皆様、本当にありがとうございます。今年も両校が全力を出し切っで思い出に残る大会となることをお祈りして、私の挨拶とさせていただきます。



## 居酒屋 舟形や

□ 早稲田店 〒162-0042

東京都新宿区早稲田町74 ビューロ早稲田2F  
TEL (03) 3202-5595

□ 馬場下店 〒162-0045

東京都新宿区馬場下町14 近代ビルB1  
TEL (03) 3202-3688

慶應義塾大学 経済学部 平成26年卒 (前年度主将)  
八木 勤 輔

第62回の慶早バドミントン定期戦の開催、誠にありがとうございます。  
今年もこうして早慶戦が無事に開催され、長い歴史をもったこの大会に関わることができ非常に光栄であります。昨年の10月27日、丸尾君と主将戦を戦ったことが昨日の事の様に思い出され、時の経つ早さに驚いております。

今年のバドミントンを語るには先日行われましたトマス杯争奪戦での男子チームの優勝は外せないでしょう。私も歴史的瞬間に立ち会うために携帯のライブ配信にかじりついておりました。特に決勝戦での早稲田大学の先輩である上田さんの躍動感溢れるプレーに感動しました。1球1球に選手、会場が一体になって盛り上がる様子にはとても興奮し現役時代を思い出しました。この優勝がこれからの日本の大学のバドミントンのさらなるレベルアップに繋がるのではないのでしょうか。

慶早戦の話に移りますが、私個人もこの定期戦があるがために塾のバドミントン部に入ったと言っても過言ではありません。リーグでは戦うことができない大学トップレベルの選手と試合することができるといふ本当に恵まれた環境の中、日々の目標として練習に励むことができました。そしてリーグ戦とはまた違う、独特の緊張感の中で戦った主将戦は一生忘れないことでしょう。前川口主将から引き継いだチームを何とか強くしたいと踏ん張った1年間の集大成をこの上ない相手と戦い、沢山の先輩方、後輩、同期に見守られながら迎えられたことはかけがえのない私の財産であります。こういった経験を現役部員にも是非体験してもらいたいなと思います。

さていよいよ歴史あるこの慶早戦が始まります。この定期戦に慶應は本気で勝負気で挑んでいます。はなから負けると思っで戦う選手は一人もいません。そういった思いが代々受け継がれていると思います。私が昨年率いたチームでは石山が単複で2勝をあげました。まだまだレベルの差があることは事実ですが着実にその差を縮めてきています。高田主将率いるチームも全員が勝利に向かって1つになっていること間違いありません。さらに成長し、そして早稲田に一泡吹かせている塾バドミントン部の姿を記念館でご覧ください。今回の慶早戦が素晴らしい戦いになり、これからの慶早両校の更なる繁栄に繋がることがを期して、私からの言葉を締めさせていただきます。



## 祝 早慶バドミントン定期戦

良い品を どこよりもお値打ちに

# 紳士服 オオニシ

大西商事有限公司 大西 紀 幸 (昭和57年慶應大学法学部卒)  
代表取締役

大須店「ビッグサイズストア」 名古屋市中区大須3-14-39 TEL 052(253)7107  
豊田店「紳士服オオニシ」 豊田市広路町 1 イオン2F TEL 0565(34)1235  
ホームページ <http://www.ohnishi0024.jp/>

今年も早慶バドミントン定期戦という伝統の戦いを迎えられることを大変嬉しく思います。

ふと思い返してみると、始めて早慶戦を戦ったとき、他の大会とは違う味わったことのない緊張感や雰囲気を感じたことを今も忘れません。早慶戦でしかつくることのできないこの独特の雰囲気での試合を通じ、早稲田、慶應の両校で絆を深めることができるのだと思います。

昨年の早慶戦がおわり、私が早稲田大学バドミントン部の「主将」になりは一年がたちました。昨年の主将である丸尾さんやそれ以前の主将の先輩方から受け継がれてきた「勝利」というバトンを結果で勝つだけでなく、勢いでも慶應を圧倒することで次の主将にしっかりと受け継ぐことができるよう、戦いたいと思います。

最後にこの早慶戦の開催にあたり協力していただいた、OB、OGの方々をはじめすべての方々に感謝を申し上げます。今年の早慶戦も選手全員が全力で、且つ気合いのこもった戦う姿をすべての方々にお見せしたいと思います。

## WASEDA VS KEIO

「歴史と伝統」!! 手作りの店  
部員会に、その他のパーティーに、

山 食

慶應義塾三田キャンパス内  
TEL 03 (3453) 5971

今年も慶早バドミントン定期戦という伝統の一戦を開催できることを大変喜ばしく感じております。歴史ある戦いも今年で62回を数え、その重みをひしひしと感じるとともに、これまで歴史を繋いで下さった両校OB・OGの方々はじめ関係者の皆様には感謝の念に堪えません。その素晴らしい舞台に、

主将として臨むことができることを大変誇りに思っています。これまで他のどの試合でも感じ得なかったと思えば1年生の時に初めて慶早戦の雰囲気を感じ、これまで他のどの試合でも感じ得なかった独特の緊張感や気迫に圧倒されました。4年生が部活動4年間の集大成としてこの戦いにかける想いを感じ、必死に戦う背中を見て、現段階では存在してしまっている実力差を何とかして埋めたい、何とかして追い越したいという想いはより一層強まってきました。

一体自分たちは早稲田の選手と何が違うのか？どうすれば追いつき追い越せるのか？実際、早稲田の練習に何度も参加させてもらい、早稲田の選手とシャトルを打つことで確かめ、日々イメージしながら必死に練習を繰り返してきました。

監督やコーチの皆様からの熱心なサポートのもと行ってきた基礎練習の成果は、今日この試合で必ずや実を結ぶのだと信じております。

実力差どうこうではなく、早稲田に勝つことは永遠のテーマです。我々慶應は今日この場でただひたすらに持てる力全てでぶつかれることを誓います。見ていてください。

最後にありますが、これまで支えてくださった監督、コーチ、OBOGの皆様、拙い私についてくれたチームメイトには心の底から感謝しております。このご恩は、今日コートでのプレーでお返しさせていただきます。

## KEIO VS WASEDA

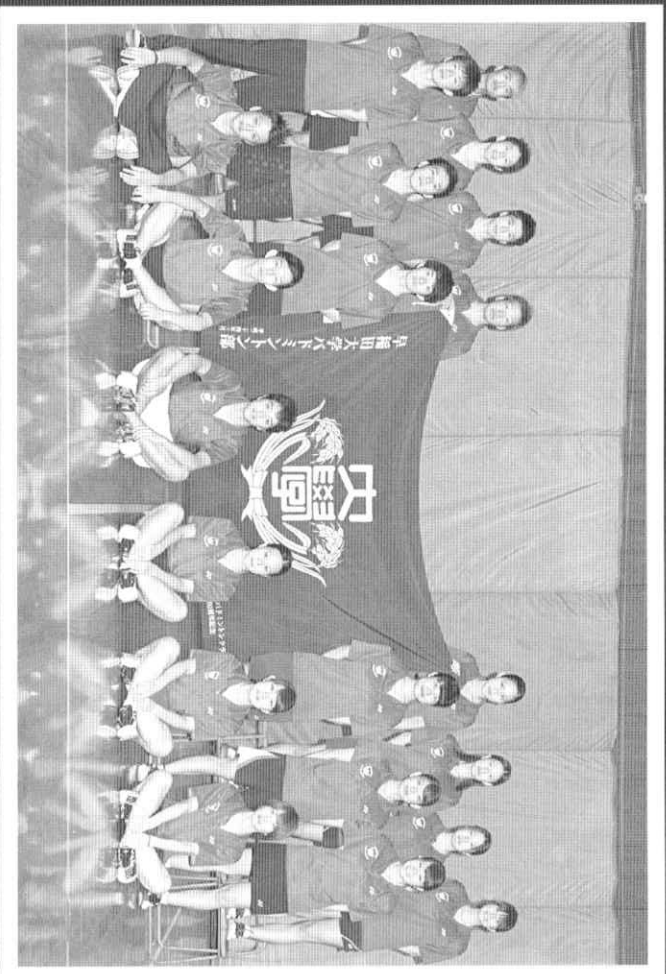
### 早稲田眼科診療所

一般眼科 アレルギー外来 ED・AGGA処方  
親身の医療、抜群の処方。

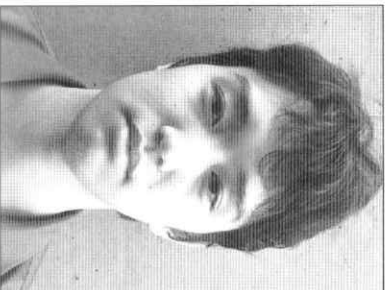
院長 尾崎良太

〒162-0045  
東京都新宿区馬場下町14  
(みずほ銀行早稲田支店ならび)  
電話/フアクシミリ 03-32050-7080  
<http://waseda-ganka.jp/>

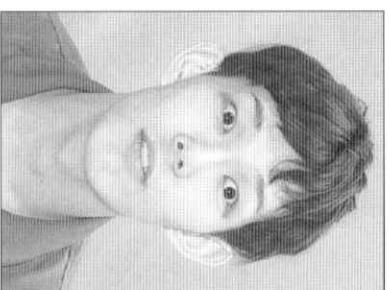
# WASSEDA



主将 和田 治久  
又ボ科<sup>4</sup>  
埼玉栄 (埼玉)  
うまはるまひしやいでイ〜ン  
田はる子まひしとして日まです。キ部  
ヤ活をまふくとめていはいまぎで。コム  
強朝なふくを駆け巡ります！パカ  
ートを引っぱカラツ



主務 堀ノ内 俊佑  
法<sup>4</sup>  
早稲田本庄 (埼玉)  
主務、体育各部実行委員、数々の役職をさら  
つとこなす部活の要。優  
しさと厳しさを兼ねてく  
備えチームを支えてく  
れています、感謝！





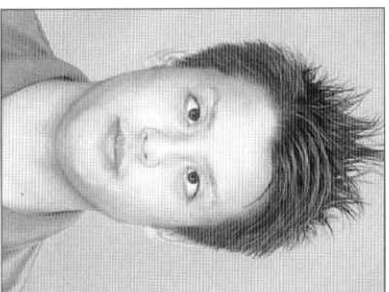
上田 真帆  
スボ科 4  
埼玉栄 (埼玉)

魔法を使って練り広げられる華麗な技に磨きをかけて、最近ではイヤイターンに進化したという噂が！本音でズバツとも申し、先輩をぶった斬ります。



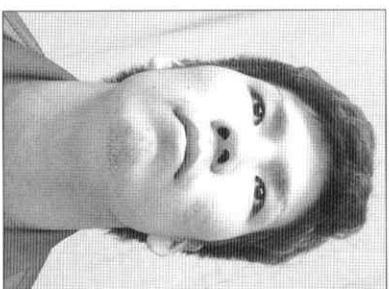
渡辺 梨沙  
スボ科 4  
札幌静修 (北海道)

先輩の面倒見がいいお姉ちゃん的存在のりさちゃん。オフの日には友達が少ない後輩達を遊びに連れて行ってくれる一面も。ポジティブはバツフロア的な位置で活躍中！



古賀 輝  
スボ科 3  
埼玉栄 (埼玉)

早稲田バドミントン部の大黒柱。体の面でも大黒柱。そして、ピールの貯蔵量も早稲田ラウンジからのクロスアツツジュはまだ誰も見たことがない。



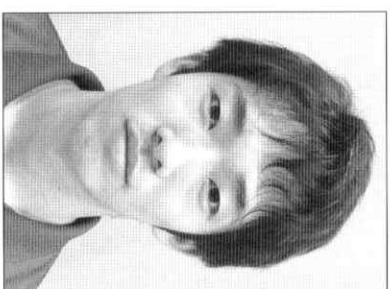
斎藤 太一  
スボ科 3  
富岡 (群馬)

見た目はいかついが中身はとて優しいツンデシ恐竜。恥ずかしがり屋だから、そこには触れないで欲しい。部屋でこくオナラはみんなの臭さを誇る。



本多 朝陽  
教育 3  
早稲田学院 (東京)

Becauseが口癖の笑顔大好きスーパーボライ。笑い始めると語尾が濁音で埋まる声の持ち主。とりあえずなについているかわからない。ギヤーギヤー



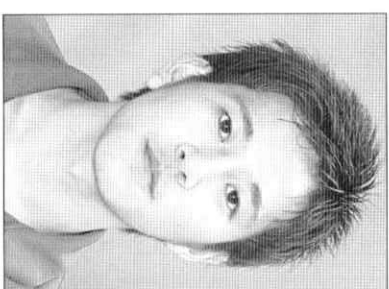
副務 太田 宗孝  
基幹理工 3  
早稲田学院 (東京)

髪が伸び始めると3頭身になる早稲田のピッジ。練習開始1分前でもテクテク赤いて体育館にやっつけてくる。優しい心から放たれるスアツジュは破壊的に速い。



清水 恵  
スボ科 3  
聖ウルスラ英智 (宮城)

可愛さ満天コラツタ。本田翼に似ているのではなく、本田翼がメグちゃんに似ているという説が強い。コートに入ると電光石火のように動き回る。



井上 博貴  
政経 2  
早稲田学院 (東京)

短足エリートヤンキー。股関節の硬さはピカーの150。かつちかちかりディーボーイ。これからも頑張っていきたい！



松岡 徹  
文構<sup>2</sup>  
新宿 (東京)

スタバの黒エプロンエリート。店員もお客様もスパーベっぴんもん。練習の疲労もエネルギーチャーヅィメンタル！



島田 きらら  
スボ科<sup>2</sup>  
青森山田 (青森)

世界一の歯並びキララ島田。人一倍歯と歯の隙間がある分、人一倍口もとデカイ猫バス。パドミントンに華麗なアクセルを取り入れる程のスパー演技力にも目が離せない。



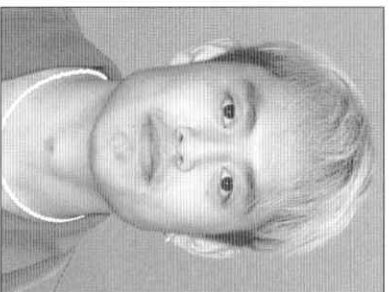
我妻美沙紀  
スボ科<sup>2</sup>  
聖ウルスラ英智(宮城)

目が自転している説、我妻。ポニョとメイド、やんのハイナリツ。シャトルが床に落ちるまでひたすらコネートを駆け巡り続けるトレンバネイはあるばっかっそ。



金森 望  
スボ科<sup>2</sup>  
九州国際大学附属(福岡)

早稲田養豚場の白豚。MADE IN TOKUSHIMAの宇宙人はまつ毛ボンボン動きが鈍い。ポニョに打たれたシャトルは反射的にクロスに打ってしまおうただの単細胞。



松本 康平  
スボ科<sup>1</sup>  
埼玉栄 (埼玉)

チンパンジー。野生の力をいかしてどんな球でも拾ってみせます。大量の汗をかいたあとの頭皮には注目！



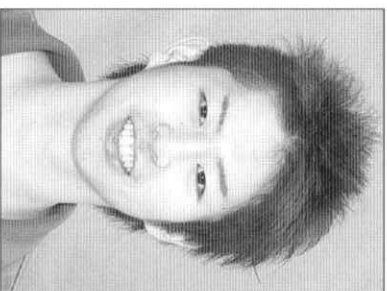
中里 祐貴  
スボ科<sup>1</sup>  
埼玉栄 (埼玉)

みんなからは“ざっていい”と呼ばれている。名前の通り人生難だが、パワ―は一級品。あと、足がとっても臭い。トッテオオガフミー。



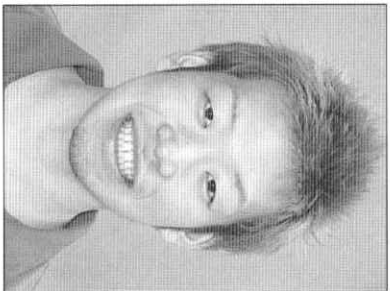
富岡 寿将  
社会学<sup>1</sup>  
熊本八代 (熊本)

見ての通りとっってもひよる長い。守備範囲がとっっても広く、その長い手足から繰り出されるカッターに注目。メンタルはけっこう弱い。



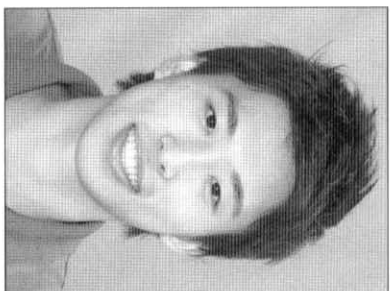
古田 時喜也  
法<sup>1</sup>  
早稲田本庄 (埼玉)

パートナーは白カビ。常に様々な生物と戯れています。服は基本的に洗濯しません。が、臭くはないらしい。靴下は一週間くらい同じやつ履けます。



田島 宏樹  
文構 1  
早稲田本庄 (埼玉)

見た目はおやじ。中身もおやじ。その名もたじまこやじ。カラオケ大好きなのでみんな誘ってね！



江藤 怜央  
スボ科 1  
生田 (神奈川)

むっつりマイペースな“えとらうー”。女の子大好きー！バドミントンで早稲田で一番愛されています。左腕から繰り出されるフレイントに期待。



中西 貴映  
スボ科 1  
大宮東 (埼玉)

スタイル抜群のサウスポニー美少女エンジェル。キョートな叫び声とともに放たれるスマツジユに相手はメロメロである。



松岡 英美  
スボ科 1  
九州国際大学附属 (福岡)

新人王に輝いたメンタルプレーヤー。得意技はにやけた顔を斜め45度に傾けた状態での「えへへへへ」。



三谷 奈央  
文構 1  
高松第一 (香川)

身長148センチの小柄なダイナモ。動きも速く時々見えなくなってしまうので注意が必要。

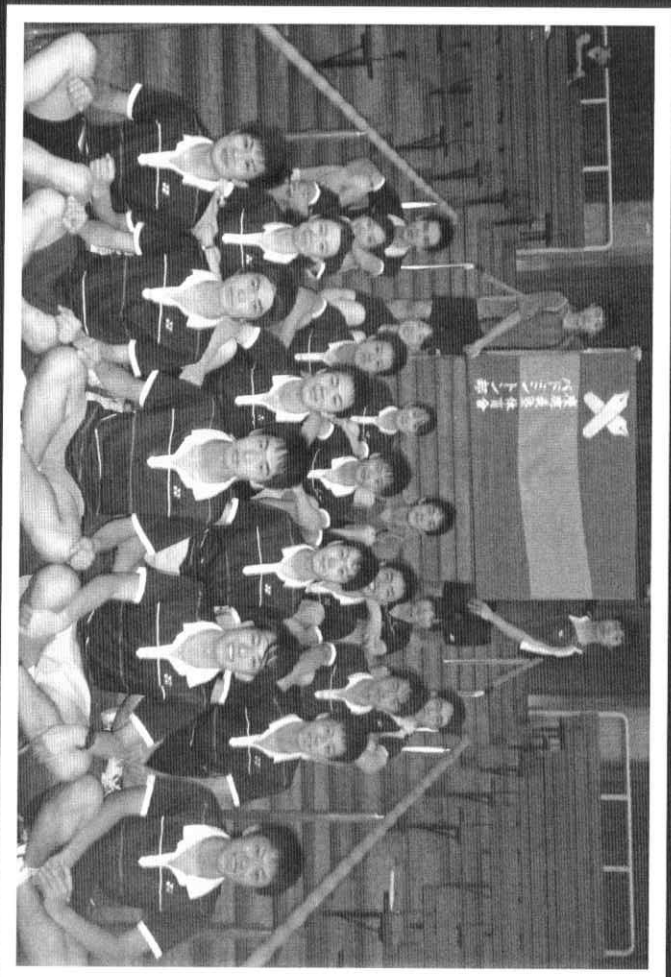


松田 美架  
スボ科 1  
茗溪学園 (茨木)

英語力は他の部員をはるかに凌駕しているベートも充実している茨城の女王。ただ、お菓子の食べ過ぎには注意である。

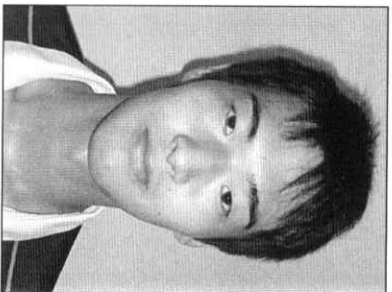


# KEIIO



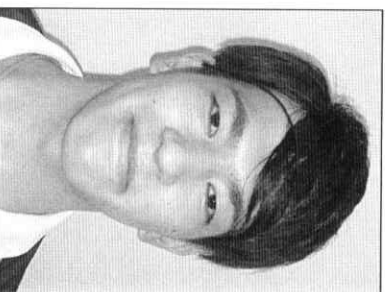
主将 大地  
高田 法政<sup>4</sup>  
土佐 (高知)

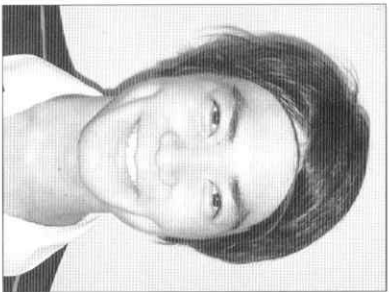
我らが頼れる大地さん！その圧倒的な包容力には何人たりとも抗えない。コート上では巨人となつて、相手コートに攻撃の波を進撃させる！



副将 朋海  
程島 商<sup>4</sup>

平塚江南 (神奈川)  
慶應の柱である我らが副将ももう集大成の年。気迫あふれるプレー、魂がこもった弾丸を完膚なきままに叩きのめす。を早稲田よ、俺の名前を覚えさせてやるよ！！

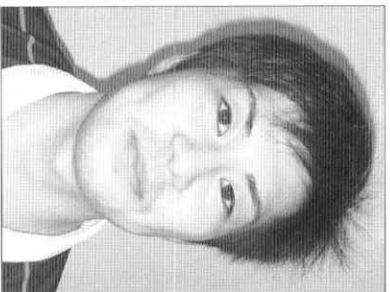




主務  
前表 和宏  
法法<sup>4</sup>  
慶應義塾志木 (埼玉)  
毎日練習前後に念入りに体のケアをしてきた前表。自身だけでなく部員のケアもしてきた甲斐もあり、マツサージが上手い。部員の体も心もほぐす彼からコート内外問わず目が離せない!



寺内 俊樹  
法政<sup>4</sup>  
宇都宮 (栃木)  
ツンと思いきやデレ、デレと思いきやツン。罰走を命じたのにも関わらず一緒に完走してくれるあたり何が何だかもうわからぬ。上がり調子の寺内パイセン。もうMr.セロなんて呼ばせない!!



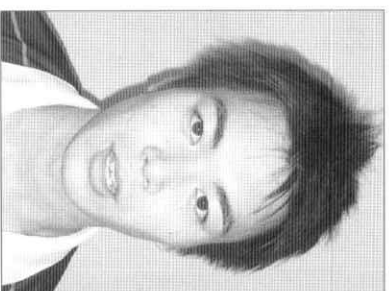
池田 岳弘  
理工<sup>4</sup>  
熊谷西 (埼玉)  
部員を笑いの嵐に巻き込む男岳弘さん!数々の伝説を持つ彼だが、コート上では無限のスタミナでシャトルを追いかけ続ける。



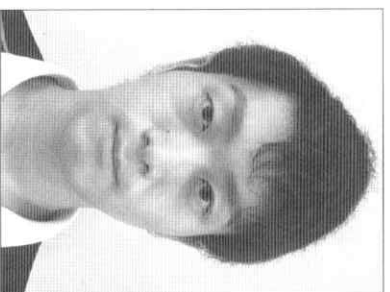
女子主務  
関 鈴沙  
経済<sup>4</sup>  
慶應義塾女子 (東京)  
整体会会主務陣の頂点に立つ主務の主務。今年はその仕事ぶりはもちろん、日々のイメトレによって実はパドミントンも上達しているとの噂。最強マナージャーとはまさに彼女のことに。



副務  
内堀 光馬  
文<sup>3</sup>  
浅野 (神奈川)  
この1年でツッコミから脱却してボケに転身しようと、あえていはらの道を進むことを決意した内堀。ボケ前後のボヤ腹をどうにかしたい。とにかく今回の内堀の笑い(とパドミントン)は一味も二味も違いますよ...



紙谷 優明  
経済<sup>3</sup>  
栄光学園 (神奈川)  
真面目でしっかり者。誰よりも真剣に練習に取り組む。真剣過ぎて怒っているように見えることもある。女子部員から一緒に仕事出来ないかと恐れられているほど、自分にも周りにも厳しい。



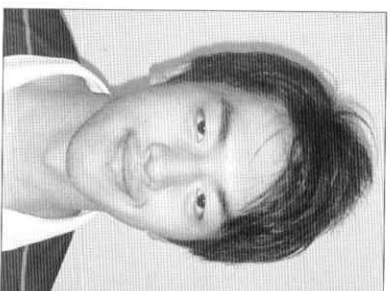
西村 武浩  
経済<sup>3</sup>  
本郷 (東京)  
冷静キヤラと思いきや意外とお茶目でございます。そのギャップに一部では可愛いとの噂も(本当は一部です)。足に巻かれたテーピングは頑張ってきた証。今日も拾って拾って拾います!



女子主将  
高瀬 秀穂  
文<sup>3</sup>  
西武台千葉 (千葉)  
3年ながらも主将かつ、絶対的なエースとして頭角を現している。部内で一番の持久力を持ちおそらく体育会女子で彼女に勝てるものはいない。全ては彼女のふくらはぎを見れば明らかになるだろう。



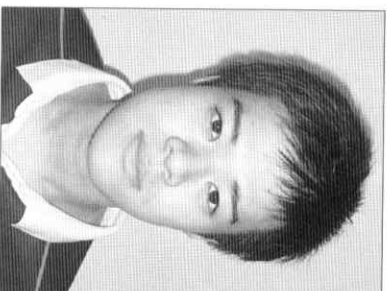
松井 佑樹  
 法法<sup>2</sup>  
 慶應義塾 (神奈川県)  
 暑苦しい見た目とは裏腹に暑苦しい。男子校出身らしい肉食っぷりはコート上にも現れる！ただ、メンタルが…たまに？…粉碎してたりとか？うん、まあ頑張ろう！君ならなんとかなる！



村山 卓  
 商<sup>2</sup>  
 東海 (愛知)  
 一年近く続いたリハビリ生活から復活した村山。名古屋と商学部をこよなく愛する。そんな彼は早慶双方のOBOG全員の出身地と学部、卒業年度を把握し、お接待の準備万端である。



石山 深也  
 理工<sup>2</sup>  
 山手学院 (神奈川県)  
 昨年早慶戦にて鮮やかに勝利を挙げた中学生石山。日常ではかわいいLINEスタンプを多用するが、コートでは相手を泣かすほどポコポコにするギャツップの持ち主。そのギャツップ、全て計算内ですけどね！けっ！



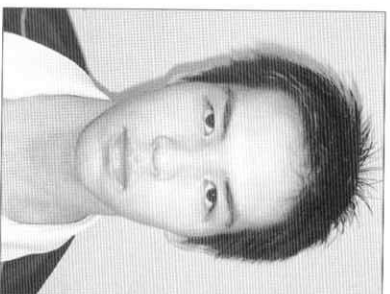
皆木 真太郎  
 総合<sup>2</sup>  
 筑波大学付属 (東京)  
 彼は日々自主練を怠らない。時には全体練習を越える強度の鍛練を行い、部員を驚かせる。まさに質より量と言わんばかりの練習量。量なら誰にも負けないぜ！さて、今日もガンガンいくぜ！



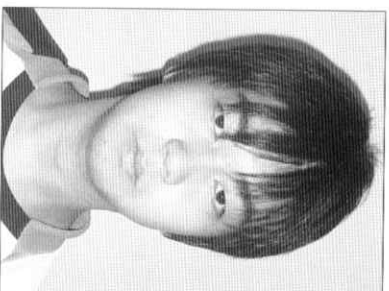
女子副務  
 高野 静香  
 法政<sup>2</sup>  
 横浜翠嵐 (神奈川県)  
 名前の通り普段は静かだが、勝負事になると負けず嫌いで対抗意識を心の中心に秘めている。どんなことでも表に出ないそのポーカーフェイスは相手の心理を困惑させるであろう。



女子副将  
 小松 鮎実  
 環境<sup>2</sup>  
 西武台千葉 (千葉県)  
 緑が好きだから、葉っぱを見つめてたら階段から落ちちゃいました。でもコートに入ったら、女子チームを誇る筋肉を存分に使って、素早く動きます。コートに入ったら。



上村 聡  
 文<sup>1</sup>  
 西武台千葉 (千葉県)  
 ゴールデンルーキー聡！いつもニコニコしている彼だが、勝負となれば咆哮とともに炭酸飲料でできた筋肉から放たれる強烈なスラッシュを相手コートにたたき込む！

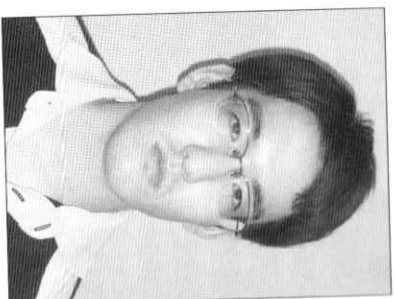


関根 章史  
 文<sup>1</sup>  
 両国 (東京)  
 シュラスコは羊肉ではなく牛肉派です。見た目とは大きく異なり、素早いレシークワヒラスを展開する元力士。いか、人は見た目じゃねえんだよ！思い知れ！



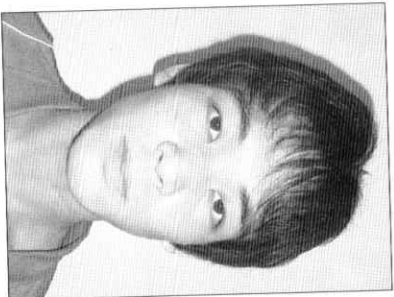
荒川 智哉  
理工1  
東葛飾 (千葉)

一年生の中では潤滑剤の役割を果たしている荒川。先輩達からも可愛がられ、部内一の人気者である。そんな彼は早稲田に向かって、ハスキーな声でこう言うだろう「俺の股を見る!!」



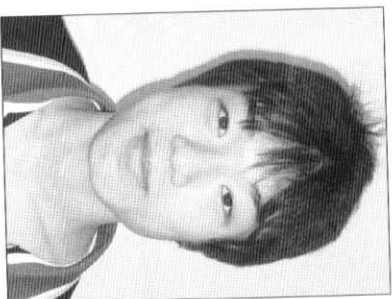
石橋 太陽  
理工1  
錦城 (東京)

一年生とは思えない風格、と言いか風貌。2年の時を超えて現代にタイムスリップした彼は日々成長を続けている。走れ!! スラッシュジャンプドライブだ!!



高橋 典雅  
理工1  
柏陽 (神奈川)

常に自分の限界に挑む高橋。バドミントンでもプラインバートでもひたすら自分を追い込み、時には自分を見失ってしまふことも多々。柔軟を活かした開脚しシューズが裸り出された時は、かなりヤバい。



長谷川 穂  
理工1  
東葛飾 (千葉)

リズム音痴の長谷川。彼がラッパの掛け声をする時、転びそうになる部員もチラホラ。リズム音痴は治らないが確実に成長しており、入部が出来るようになった。



川原 優  
総合1  
九州国際大学付属 (福岡)

2部昇格を決めた新人ルーキー。ジャッジミスは全てことごとく抗議し覆してきたように自分の主張をはっきり言う。さあ、今回は何回抗議しに行くのか見ものである。



**監督**  
加藤 正裕  
Masahiro Kato  
平成2年経済学部卒  
慶應義塾志木(埼玉)出身  
三菱UFJ投信

多忙な日々の中でも、現役の成長を常に考え続ける。そもそもを見直す視点を与え、近道がいいつも正解ではないことを教える。



**女子監督**  
加藤 幸司  
Koji Kato  
昭和57年法学部卒  
慶應義塾志木(埼玉)出身  
慶應義塾大学体育研究所

長年の指導経験を糧に、様々な角度から現役を指導する。その飽くなき探究心は留まるどころを知らず、指導者としての最善解を探し続ける。



**ヘッドコーチ**  
竹鼻 拓也  
Takuya Takehana  
法政大学卒  
金沢二水(石川)出身  
NTTドコモ

努力は才能を上回る。精神は技術を上回る。自らのプレーにより、そのメッセージを訴え続ける。彼は人を強くする。



**女子コーチ**  
和栗 恵  
Megumi Waguri  
平成21年法学部卒  
慶應義塾女子(東京)出身  
江東区医師会

全てのイベントに参加し、現役と変わらない体力を今も継続している彼女は、現役よりも冴えるショットを繰り出す。



**男子コーチ**  
森本 修介  
Shusuke Morimoto  
平成22年環境情報学部卒  
日大第三(東京)出身  
NTTドコモ

その優しく引き込まれるような笑顔とは裏腹に、コートでは現役を極限まで追い詰める。その美しく粘るパドミントンは羨望の的である。



**女子コーチ**  
植田 悠  
Haruka Ueda  
平成24年環境情報学部卒  
九州国際大付属(福岡)出身  
全日本空輸

いつでも優しく、そして的確なアドバイスで現役を導いてくれる。天使のような彼女のことを現役一同尊敬してやまない。



**男子コーチ**  
小澤 雄貴  
Yuki Ozawa  
平成25年文学部卒  
桐光学園(神奈川)出身  
独立行政法人都市再生機構

社会人となっても日々の鍛錬を欠かさない。そんな彼の姿に、パドミントンを愛することが上達への重要なスパイスである、と気付かされる。



**男子コーチ**  
平林 桂祐  
Keisuke Hirabayashi  
平成26年文学部卒  
松本深志(長野)出身  
日本調剤

まるで落語家のようなトーク力で相手を笑わせるが、聞く力も卓越している。そんな彼との会話が終わると、悩んでいたことすら忘れてしまう。



**男子コーチ**  
桐生 聡之  
Satoshi Kiryu  
平成26年理工学部卒  
慶應義塾志木(埼玉)出身  
平和不動産

社会人となった今、パドミントンへのストイックさは形を変え、オンシヤレの妥協を許さない姿勢へと変わった。ただ、髪型の謎は深まるばかりだ。

(※)各コーチの紹介欄に掲載された名言(?)とコメントは、各コーチの人柄や生き様に対して抱いている印象を基に程島副将が書き綴ったもので、コーチ本人の言葉ではないことをおきます。